

準天頂衛星がもたらす歩行者ナビゲーションの新たな世界

(株)ゼンリン 穴井誠二

2009年に打ち上げが予定される準天頂衛星は、従来のGPSでは不可能な新しい利用分野の創造が予測される。即ち、GPS補強・捕捉支援サービスを利用し、初期捕捉はより早く、より正確な位置（精度1m以下）を得ることが出来るようになり、また、高仰角からのサービスにより、ビル街、山間部での受信可能エリアが拡大する。これにより、高精度の測位機能が実現することで、特に歩行者ナビゲーション分野が大きく発展するものと思われる。この歩行者ナビゲーションにおいて、住宅地図、カーナビ用地図データのトップメーカーである、ゼンリンは、大きな役割を果たすだろう。住宅地図やカーナビのノウハウを活用した詳細な地図情報及びコンテンツ情報がゼンリンから提供されることにより、歩行者ナビは新たな世界を創造しよう。身体障害者や高齢者にとっては、健常者以上に、詳細地図情報が提供される次世代歩行者ナビは、不便な思いをしがちな日常生活の有力な支援者となろう。

また、RFID（無線タグ）や無線LAN等の利用により、電波の届かない地下街でも測位が可能となることが予測される。ビルの何階にいるのかも判別が可能となるだろう。従って、歩行者ナビゲーションは、屋内、屋外を問わず、あらゆる場所、あらゆるシーンで利用されるようになるものと見られる。

ゼンリンの主力製品である、住宅地図は、地方自治体が発行する2500分の1の国土基本図又は都市計画図を基に作成されたもので、一戸一戸の建物名称・居住者名称や、番地を大縮尺地図上に詳細表示したものである。創業以来、約60年間で、日本全国1844市区町村中、1828市区町村の地図を製作した（2006年3月30日現在、カバー率＝約99％）。住宅地図ビジネスの最大の課題は、調査、いわゆる、メンテナンスである。このための調査スタッフは、常時1500人のスタッフ＝延28万人を擁している。調査スタッフは、一軒一軒歩きながら必要な項目を調査図面に記入していく。一般住宅・事業所・集合住宅・公共施設等の名称を始め、建物の形、階数、道路形状や信号・交差点・一方通行などの道路情報などあらゆるものが調査対象となる。

日本におけるカーナビゲーションの普及は、世界トップ（2006年度の見込み出荷台数＝約300万台）であるが、その陰には、市場占拠率が75%で、精度の高い、詳細なカーナビ地図データを提供する、ゼンリンの役割が大きいことは誰も否定できないだろう。